

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町1-6-11		
自己評価作成日	2022年4月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①コロナ禍の中、利用者様がストレスを溜めないように日々施設内でのレクリエーション等に工夫しADL、QOL維持向上に努め、楽しく活気あふれる生活を提供させて頂いています。 また、コロナの収束を見据えて、野外活動、地域交流を企画立案し実践していきます。</p> <p>②訪問診療・訪問歯科・訪問看護と連携し、ご利用者様の健康管理を行い、安心できる生活を提供させて頂いています。</p> <p>③年間を通してイベント食の企画を多く取り入れて、ご利用者様のリクエストに応じ職員と一緒に調理し、提供しています。(皆さんで畑で育てた無農薬野菜を収穫し、調理に活用)</p>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍のため通常の地域交流・外出は困難であるが、可能な方法を工夫して、利用者・事業所が地域・家族とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。広い菜園や玄関テラスを活用し、園芸活動・ガーデンング・お茶会・昼食会を行う等、季節を感じ戸外で活動できるよう支援している。手作り調理を継続し、利用者の希望や行事を取り入れた特別メニューやおやつ作りを企画し、多くの利用者が積極的に参加している。毎月のイベント、日々の体操・レクリエーション・趣味活動・家事参加・園芸活動等、利用者が日常生活の中で季節や楽しみを感じ、心身機能や生活の質が向上できるよう取り組んでいる。協力医療機関・訪問看護と医療連携体制を整備し、家族の希望に応じて看取り介護にも対応している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職場に掲示し、職員間で共有している。それをより実践するためにビジョンを作成し、具体的に実践している。定期的に実践した内容を確認し、次の展開に繋いでいる。	法人の理念、事業所の理念・ビジョンを掲示し共有を図っている。事業所の理念・ビジョンに、地域密着型サービスの考え方を明示している。毎朝の申し送り時に、法人の理念・コンプライアンスルールの読み合わせを行い、実践に取り組んでいる。事業所の理念・ビジョンは、職員の意見・提案を集約して作成し、期末のフロア会議で実践状況を振り返り、次期の理念・基本方針につなげ実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃、地区落語会、盆踊り、市民祭り近隣の高等学校文化祭などに参加をして交流を深めています。 →R.2.3月より中断(コロナ感染対応)	コロナ禍以前は、利用者と一緒に地域行事や祭りに参加し、だんじりの立ち寄りがあり、認知症カフェ・近隣の高校の文化祭等にも参加していた。近隣の人を事業所の文化祭に招待し、彼岸には利用者と一緒に作ったおはぎを配り、また、ボランティアの来訪もあった。コロナ禍のため、通常地域交流は困難であるが、自治会から地域について情報提供があり、利用者が玄関テラスで活動したり事業所前を掃除している時には、近隣の人と挨拶や言葉を交わしている。敬老の日に高校生からプレゼントを贈られたり、餅つき行事の餅や事業所の菜園で収穫した野菜を近隣の人に配ったり、AEDの設置と掲示、介護相談の対応、災害時の一時避難受け入れ等、可能な形で地域交流・地域貢献を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	畑で収穫した野菜を近隣の方々にご利用者様と職員がお配りしたりして、ありのままのホームを見ていただいています。(R2年に畑を拡張し、以前より菜園活動を推進している)		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様・ご家族様・地区会長・地域包括地域の介護事業者に対して会社・施設の状況をお伝えしご意見を頂き、より良いサービス向上に繋げている。→R2.3月より内部のみで開催している。	利用者・家族・地域代表(地区会長)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所職員)・事業所職員を構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。令和2・3年度は、ホーム長・副ホーム長・フロアリーダーが参加して内部のみで開催し、利用者・事業所状況、行事・活動・研修、事故ヒヤリハット事例について情報共有し、身体拘束委員会、感染予防委員会を行っている。構成委員には、議事録と写真を掲載した活動報告を郵送し、返信用紙も同封し意見・情報の返信を依頼している。返信があれば、次回の会議で共有することとしている。議事録のファイルを玄関に設置し、公開している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当地域包括だけではなく、市の窓口へも報告や相談に行っている。 地元のケアマネ会やグループホーム会に参加してご協力いただいています。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携している。市のグループホーム連絡会に参加し、連絡会には市や地域包括支援センターからも参加があり、情報交換や相談を行う機会になっている。市からの電話やメールでの情報提供を、事業所の運営やコロナ対策に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。毎月の全体会議では拘束"0"の期間を確認と身体拘束適正化委員会を実施(回/2ヶ月)	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。2ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」を実施し、身体拘束事例0件の確認と、「虐待の目」アンケート(年2回)の集計結果に基づく検討等、委員会毎にテーマを設定し、適正化に向けた検討を行っている。委員会の議事録を各フロアで回覧し、回覧印で周知を確認している。オンライン研修の年間研修計画に沿って、年に2回「身体拘束適正化」の研修を実施している。全職員が視聴し、確認テストと感想文の入力により管理者が受講を確認している。フロア・玄関は電子錠対応としているが、外出の希望があれば、玄関テラス・菜園・ベランダに出る等、閉塞感を感じないよう支援している。	

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員虐待防止の意味を理解し、実践に取り組んでいる。定期的に”虐待の芽”アンケートを実施し確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講している職員から内部職員への伝達をしている。また、ご利用者様で後見人制度を利用されている方がいるので実際に後見人の姿を通して学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が主体となり十分な時間をとってご利用者様・ご家族様のご理解を頂いている。ご利用内容の改定等は運営推進会議などを通じて十分な説明を行い、ご理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議、面会時にはご意見を頂ける様な声掛けをしている。また玄関には専用ポストを設置している。年一度、ご家族様に満足調査を実施し、施設運営改善に役立てている。	コロナ禍以前の面会や家族会議(年1回)は困難な状況であるが、時期を勘案し、玄関テラス面会・タブレット面会・居室での面会に対応し、利用者の近況を知ってもらい、意見・要望の把握に努めている。面会機会が少ない時期は、管理者が週に1回電話で様子を知らせていた。毎月フロア毎に写真を多く掲載した「西三荘だより」とフロアの行事や利用者個々のADLを記載した「日々の便り」を、2ヶ月に1回運営推進会議の議事録と資料を郵送し、利用者の様子や事業所の取り組みを伝え、意見・要望が出やすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、朝の申し送り・申し送りノート・タブレット(特記事項)に記録し、情報共有している。法人が年に1回行う家族アンケートの結果も、サービスや運営に反映している。	

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	徹底討論徹底和解の本社理念のもと、毎月フロア会議を実施して職員の意見を聴く機会を設けている。また職員の日々の気づきを運営改善に役立てている。	月に1回各フロアでフロア会議を行い、諸連絡と全利用者について情報共有や検討を行い、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。日々の共有事項や検討事項は、申し送り時や業務内に行い、申し送りノートやタブレット内で共有している。定期的には年に2回、随時にも管理者が面談を行い、職員の意見・提案を個別に聴く機会も設けている。従業員満足度アンケート(年1回)、「業務改善提案書」、法人の相談窓口等、法人に意見・提案を伝える仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社「誰伸び制度」を全職員が理解し、やる気があればステップアップできる環境がつけられている。また、年に一度の職員希望調査で、本人の希望を優先してできることを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内でコーチングなどの各種研修を実施。また、各職員がスキルアップし、資格習得研修等受講し易くなるように受講費用等支援制度を設けている。新入社員に対してはチューター制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネ会や地元のグループホーム会に参加できる環境が整っている。また職員は本社研修や会議等で他地域の職員との交流が出来る。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様より聞き取りが困難であれば、ご家族様や関係ケアマネ等の話を傾聴して現状把握に努める。		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様が安心して話していただけるような場所と時間を設定し話が尽きるまで徹底して傾聴している。またいつでも来訪時には気安く話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のニーズをしっかりと把握するように努めている。施設内外サービスも十分ご説明して必要なものはご理解して頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設周辺清掃から居室やフロア掃除、調理食器洗い、洗濯たたみ等ご利用者様と一緒に、「有難うございます。」感謝の言葉が飛び交う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が制限されているため家族への通信紙(西三荘便り)を発行しご利用者様の生活状況を伝え、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ収束を見据えて、いつでも活動できる準備を計画中	地域からの入居が多く、コロナ禍以前は家族・友人・知人の面会が多く、地域行事や外出時に会うこともあり、また、自宅・墓参り・外食等の家族との外出も支援し、馴染みの人や場所との関係継続を支援していた。コロナ禍のため通常的面会・交流・外出は困難だが、時期を勘案して面会方法や家族との外出を工夫し、電話・手紙の支援も行う等、可能な方法で関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やレクリエーション、イベントにおいてご利用者様の個性を大切に活かしつつお互いが支え合う関係作りを支援しています。		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様、ご家族様には何かあればいつでも相談に来られるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや計画作成を中心としてカンファレンスを実施してご利用者様の思いや意向の把握に努める。	入居時に把握した利用者の思いや暮らし方の希望は、「フェイスシート」の「生活歴」「趣味・嗜好」「家族・本人の主訴や要望」欄に記録し、支援や施設サービス計画に反映できるよう取り組んでいる。入居後の会話等で把握した情報は「介護記録」やフロア会議で共有し、支援や施設サービス計画への反映に努めている。把握が困難な場合は、家族からの意見・情報を参考にしたり、表情や反応から汲み取れるよう努めている。	入居後に把握した、馴染みの関係や、思いや暮らし方の希望についての情報を、「フェイスシート」に追記して、情報の蓄積や個別支援に活用してはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様、元ケアマネなど関係する方々のお話をよく聴くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の介護記録を毎日記録して現状の把握に努めている。事実に基づいて職員間で情報の共有化を図っている。(タブレットでデータ化し、傾向管理し課題への取り組みを行っている)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様介護職員、医療関係者などの意見を聴いてモニタリングを実施している。その結果を次期介護計画の見直しに反映する。	「フェイスシート」を基に担当者会議を開催し、初回の施設サービス計画書を作成している。サービスの実施状況は、タブレット内の介護記録と各種記録(排泄・入浴等)に記録している。毎月のフロア会議で、利用者個々の情報共有や必要な検討を行っている。必要時は随時、定期的には6ヶ月毎に施設サービス計画の見直しを行っている。見直しの際は、「評価表」によるモニタリングと「ケアチェック表」による再アセスメントを行い、担当者会議を開催している。利用者・家族の意向も担当者会議議事録に記録している。	介護記録の項目欄を活用する等、施設サービス計画に基づいた実施記録が定着するよう、さらに取り組みされることを期待します。また、施設サービス計画見直し時に、主治医・看護師等関係者の意見があれば、担当者会議議事録に記録してはどうか。

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に必ず介護記録を確認して情報の共有を図り、状態の変化を発見して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 ti	散歩、菜園作り、買い物。或いは外出イベントを行い、ご利用者様本位の柔軟のある支援を行っている。 →外出については中止(コロナ感染対策)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で制限されているが収束を見据えて、地域資源を活用し楽しい生活ができるよう支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、特に体調変化のあるご利用者様には予定日に関係なく診ていただいている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。協力医療機関から内科・精神科・歯科の往診が受けられる体制がある。週に1回訪問看護の訪問があり、健康管理や主治医との連携を行っている。他科についても、眼科以外は、協力医療機関で対応している。往診時は管理者が立ち会い、「介護記録」「支援経過記録」等に記録している。訪問看護は「バイタルチェック表」に記録し、必要時は「介護記録」にも記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、火or木曜日の訪問時に1週間の報告をしている。看護師は訪問医師と職員に気づいた点や変化を報告。また訪問医師の指示が関係者全員にいきわたるよう努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、提携病院の地域連携室と連絡を取り、ご利用者様の状態の把握に努め、また担当医師より病気の現状や今後の治療方針を教えていただいている。		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針をご家族様に説明し、職員には看取り加算申請の旨を伝えている。本社では看取りについての研修の実施されていて、全職員が施設伝達研修として受講している。	契約時に、「重要事項説明書」内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、医師が状況を説明し、管理者が指針を再度説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、事業所が「看取り介護の同意書」で同意を得て、看取りに向けた「介護計画」を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、「介護記録」と「支援経過記録」に記録している。年間研修計画の中で、「看取り研修」(オンライン研修)を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、急変時に備えている。 ご逝去に伴う事故・骨折の伴う事故・離脱事故の対応方法については職場に掲示している。会議等で対応の訓練を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。 また、緊急避難先の近接高校へは文化祭などで見学を通じて顔なじみの関係を構築している。 →外部との交流は中止(コロナ感染対策)	年2回、日中・夜間想定で、利用者も参加して、通報・避難誘導・消火の総合訓練を実施している。年1回は消防署の立ち合いがあり、指導・助言を受けている。実施後は、「消防訓練報告書」に訓練内容・今後の課題等を記録している。フロア会議で報告し、年1回は参加できるようシフト調整する等、職員全員が災害時対応を習得できるよう取り組んでいる。運営推進会議で話し合ったり、緊急避難先の近隣高校と交流する等、地域との協力体制が築けるよう努めている。備蓄については法人が支給・管理し、1階倉庫で保管している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症実践者研修などで学んだ事を基に認知症についての施設研修を実施して「ご利用者様に寄り添う馴染の関係を構築できるように努める。	オンライン研修で「接遇マナー」「人権及び虐待・身体拘束防止」「認知症」研修を実施し、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「虐待の目」アンケートにより定期的に(年2回)振り返りを行い、集計結果を委員会で検討し、フロア会議の中で管理者が注意喚起する等、意識向上に努めている。個人ファイル類は各フロアの鍵のかかる書庫に保管し、写真・映像の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけではなく、ご利用者様自分で決定できるように時間を十分に取ってじっくりお話を聴かせて頂くように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本位を尊重し、その人に合った生活リズムで支援している。起床・就寝時間、共有スペース・居室での過ごし方。又、コーヒー・ジュース類・スポーツドリンク等の飲料提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の使い慣れた化粧品、装飾品などご家族様に購入をお願いしたり、職員が買物をし、支援している。 →外出については中止(ご利用者様)		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食材をご利用者様とともに、調理をしてい る。またご利用者様の要望を取り込み、お 寿司、麺類等の特別メニューに変更するな どしています。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで 炊飯と汁物・主菜の調理を行い、副菜は湯煎 して提供している。利用者個々に合わせた食 事形態にも対応している。キッチンの調理場 を広く取り、多くの利用者が、調理・盛り付け 後片付けに積極的に参加している。利用者 の希望を取り入れた特別メニューや年間行 事に合わせた行事食(にぎり寿司・ちらし寿 司・海鮮丼・うなぎ丼・オードブル・セタうどん 等)、おやつ作り(ドーナツ・ケーキ・おはぎ・ かき氷等)、餅つき等を企画し、「食」が楽しめ る機会作りを行っている。玄関テラスを活用 し、お茶会や昼食会も行っている。事業所の 広い菜園で利用者と一緒に植栽した野菜や 果物も食材として活用し、利用者が季節感や 収穫を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	専門業者から購入し、バランスのとれた食 事を提供している。又、収穫された野菜を 活用し、メニューを追加し提供。食事形態 は普通・刻み・ミキサー・ムース食を提供し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また希 望者には訪問歯科により、毎週又は月一 のケアを実施月一回、歯科医・衛生士との カンファレンスを行い、口腔ケアのスキル向 上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、排泄の訴えサイン を見つけてトイレ誘導している。	看取り期の利用者(1名)以外は、排泄の自 立度が高い状況である。必要に応じて声か け誘導し、日中はトイレでの排泄・排泄の自 立に向けて支援している。夜間は、安眠にも 配慮し個別の方法で対応している。排泄状況 や排泄パターンは、タブレット内に記録し共 有している。介助方法や排泄用品の使用に ついての日々の検討事項は、申し送り時や 業務内に検討してタブレットの特記事項で共 有し、また、フロア会議でも検討し、現状に即 した支援につなげている。声掛けのトーン 等、プライバシーへの配慮についても周知を 図っている。	

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を提供したり、ヨーグルトを活用している。また腸の動くを活発にする体操も取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に2回/週の入浴日を設定しているが、利用者様に希望をお聞きし、臨機応変に対応させて頂いています。また、季節に合って菖蒲湯、柚子風呂等を提供しています。	入浴日・時間帯(午前・午後)を設定し、週2回以上の入浴を基本としているが、利用者の体調や気分に応じて柔軟に対応し、タブレット内の記録で入浴状況を把握している。一般浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴できるよう時間調整している。利用者の身体状況に応じて、2人介助・シャワー浴・清拭でも対応している。しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤で、入浴をより楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクを実施して日中の活動量を増やし、夜間良く眠れるように工夫しています。また、居室で休息したいご利用者様には、いつでもできるように支援しています。 →外出は制限(コロナ感染対策)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬情報を個別に管理し、いつでも閲覧できるようにしています。また薬剤師が来たときに、その都度職員から薬についての質問ができるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、料理、洗濯干し、取り込み、歌、書道、パズル、トランプ、将棋、絵手紙などご利用者本位の支援をしています。 散歩は制限あり(コロナ感染対策)		

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	清掃、花の水やり、菜園、散歩、外出等を日課として取り込んでいます。また、地域とのふれ合いを考慮し、喫茶モーニング、買い物、ドライブ等ご希望に応じて実施しています。→外出は制限あり(コロナ感染対策)	コロナ禍以前は、買い物・認知症カフェ・地域行事・祭り・高校の文化祭等で地域に出かけ、季節の外出行事・遠足等も行い、積極的に外出支援を行っていた。コロナ禍のため通常通りの外出は困難であるが、時期を勘案しながら、散歩・ドライブ・花見は継続している。また、玄関テラスでのお茶会・昼食会・ガーデニング、玄関前の掃除、ベランダでの外気浴や洗濯干し、広い菜園での園芸活動等、戸外で活動したり気分転換できる機会作りを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設用の買い物以外にご利用者の預り金を使った個人買い物のある。職員と外出同行しお金をだして買い物を楽しんで頂いています。外出は中止(コロナ感染対策)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書道、絵手紙、季節に合ったイベント等を実施し毎月「日々の便り」「月間予定表」「西三荘便り」でご利用者の様子等を発信しています。西三荘便りは各ユニット別にし写真を載せより充実させている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に応じた花を飾り、壁飾りは月々の変化が感じられるよう配慮しています。作品作りはご利用者と職員が協働します。5S活動を展開し、常に清潔さに努めています。	各フロアの共用空間は、大きな窓からの採光が良く明るく、整理整頓され、清潔感がある。空気清浄機・加湿器の設置、換気・消毒等、衛生管理を行っている。テーブル席とソファを設置し、思い思いに過ごせる環境である。利用者と一緒に制作する月替わりの装飾、書道や絵手紙の作品、生花を飾り、季節感が感じられる。キッチンで手作りの調理を行い、利用者も調理・掃除・洗濯物たたみ等に参加し、生活感を取り入れている。日々の体操・レクリエーション・趣味活動・家事参加等、多くの利用者が共用空間で日中を過ごしている。玄関テラス・広い菜園も共用空間として活用している。	

グループホーム たのしい家西三荘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いて、一人で過ごせるスペースを確保し、活用して頂いています。また、食席の配置は気の合うご利用者様等を配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、額縁、文机、タンス等 入居前に使っていた愛用品を持ってきていただいています。	各居室に、クローゼット・ベッド・コールボタン・カーテン等が備え付けられている。筆筒・テーブル・椅子・テレビ等の使い慣れた家具、仏壇・家族の写真・自作の絵画やパッチワークの作品等の馴染みのあるものが持ち込まれている。居室担当職員が利用者と一緒に衣替えや掃除・物品整理等を行い、生活環境が整備できるよう自立支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの明るさの調整ができるように設計されている。調理はITを使用して安全第一を考えています。調理場も広く取り、ご利用者様と共同で作業できるようになっています。		